

5 カナダとオーストラリアにみる 教員評価と教育方法改善のための支援体制 現地調査報告

井上 智義
(同志社大学)

1. はじめに

本研究プロジェクトにおける海外調査で、著者は2005年3月に、カナダのブリティッシュ・コロンビア州のビクトリアにある2つの大学、ビクトリア大学とカモーンソン大学を訪問した。また、2006年9月には、オーストラリアのビクトリア州のメルボルン大学を訪問した。この報告書の原稿は、その際に取材したそれぞれの大学での教員評価やFD(ファカルティ・ディベロプメント)、それに、教育改善の支援体制などについて報告して、最後にそれらの内容を考察するものである。

2. ビクトリア大学における教員評価

カナダのビクトリア大学では、2001年1月に大学当局と教員組織の間で、ある包括的な枠組み協定(Framework Agreement: <http://web.uvic.ca/vpac/framework.htm>)に盛り込まれた数多くの規則が発効した。その中のひとつの特徴は、教育活動調書(teaching dossier)なるものの1年ごとの作成と提出が、すべての専任教員に義務づけられた点である。教育活動調書とは、以下の5項目が含まれる内容で構成され、2ページから8ページの長さ制限が設けられている。その5項目とは、授業のコマ数と指導する院生の数などの教育負担責任、教育目標と教育方法の明確化、教育方法改善の努力、学生の学習支援への積極的貢献、教育評価である。最後の項目の教員評価の中には、授業に関する学生からの評価、同僚教員からの評価、自己評価などが含まれる。

そもそも、専任の大学教員には、教育活動と研究活動、そして、大学運営に関する貢献が期待されていることが、さまざまな資料により明示されている。また、その比率は4:4:2であることも、インタビューを実施した複数の教員によっても確認された。そして、各学部各学科において、それぞれの評価票が、専任教員の身分に応じて作成されており、それらの評価結果が給与に反映されるメカニズムが構築されている。そこでは、資料1から資料3に示されているとおり、専任教員の身分が上であるほど評価がより厳しくなる。また、研究活動と教育活動については、0点から4点の5段階評定が用いられ、最後の大学運営に関する貢献については、0点から1点までの3段階評定が用いられている。これらのことは、得点化した個人ごとの評価が上述のとおり、教育活動で4割、研究活動で4割、大学運営への貢献で2割から成り立っていることを客観的に物語っている。これらの評価は、原則として3名からなる評価委員会で数値が算出され、本人にフィードバックされるとともに、本人には、異議申し立てができる機会も保障されている。しかし、この給与に影響を与える評価が同僚教員によってなされている事実は特筆に価する。

3. カナダ2大学の学習教育実践センター

調査をおこなったビクトリアの2大学、ビクトリア大学とカモーンソン大学には、いずれも学習教育実践センター（The Learning & Teaching Centre）とよばれる部署がそれぞれ設置されていた。

まず、ビクトリア大学の学習教育センターでは、教員に対するサービスとして、新任（着任）教員の教育活動に関するオリエンテーションや、教育方法改善に関するカウンセリング、授業のビデオ分析、教育方法改善のための助成金交付などに関する業務を行っている。また、教育方法改善のための各種のワークショップやセミナーの開催、高等教育に関する研究の情報を提供、優れた教育実践をしている教員の表彰など、教育学習環境の改善のための多彩な活動をおこなっている。



写真 3.5.1 ビクトリア大学（カナダ）での学習教育実践センターにおいて、優れた教育実践者が毎年選ばれ表彰されている。右側の写真はビクトリア大学のキャンパス。



写真 3.5.2 カモーンソン大学の学習教育実践センター（右側）。インターネットを活用した宅配教育のセンターとしての機能も果たしている。

つぎに、コミュニティ大学として、より幅広い社会のニーズに応えているカモーンソン大学の学習教育実践センターの活動を紹介します。ビクトリア大学の学習教育実践センターが、どちらかというとならぬと教員対象の支援センターの性格を色濃くもっているのに対して、カモーンソン大学の学習教

育実践センターでは、学習支援を求める学生や教職員、地域住民を含めた幅広い層からの要求に応えようとしている。とりわけ、インターネットを活用した宅配教育（distributed education）システムを構築し、キャンパスに通うことなく、多くの人たちが高等教育を受ける機会を得るための利便性を提供しようとしている。

この宅配教育では、教室でなされる通常の授業ではむずかしい個人ベースでの学習やマルチメディアを用いた教育内容などが可能になる。また、通常の授業の予習や復習として、関連のサイトを活用すれば、多面的な学習が促進されることも期待できる。またカモーンソン大学には、複数のキャンパスが存在するため、双方のキャンパスに所属する教職員や学生が、相互に他のキャンパスの教育資源を活用することを促進させるための機能も備えているといえよう。

4．メルボルン大学の言語・学習技能センター

メルボルン大学は、オーストラリアのビクトリア州に位置するメルボルンにあって、150年以上の歴史をもつ、オーストラリアでは最も伝統的な大学のひとつである。このメルボルン大学では、一級の教育学習環境の維持は大学全体の責任であるとしたうえで、9つの教育原則を掲げている。それらは、以下のとおりである。知的興奮のある雰囲気、教育活動に関係する集約的な研究文化、刺激的で包容力のある人間関係、国際的で文化的に多様なカリキュラムと学習コミュニティ、個々人の発達のための支援、学術面での明確な目標と基準、試行・フィードバック・評価の学習循環、高度な学習資源と技術、適応性のあるカリキュラム。このうち、最初の4項目は大学の知的環境にかかわるものである。

このような教育原則にしたがって、理想的な教育を可能にするために、メルボルン大学では、言語・学習技能センター(The Language and Learning Skills Unit)が設置されている。ここは、表面的には学生の学業面での支援センターとして位置づけされている。たとえば、資料4にあるように、学生が自由に出入りできるセンターの棚に、さまざまなパンフレットやチラシ、カードなどを準備して、効果的な読書の仕方、論文やレポートの書き方、盗作しないための注意事項、留学生や英語を母語としない学生への特別支援などの対応を実践している。また、キャンパスでの悩みやさまざまな問題をもつ学生には個別のカウンセリングで対応して、学業面で不都合が出ないような対策も講じることになっている。ただ、それだけではなく、学生の授業や教員に対する評価や不満を吸い上げ、関連の学部へのその情報を提供し、担当の教員と学生の間に不要な摩擦が生じないような配慮もなされているようである。

5．まとめ

本稿では、本研究プロジェクトの一環として実施された海外調査のうち、カナダのビクトリア大学とカモーンソン大学、それに、オーストラリアのメルボルン大学において、それぞれの大学での教員評価やFD(ファカルティ・ディベロプメント)、それに、教育改善の支援体制などについて、今後の日本の高等教育の現場でも参考になる部分について報告しようとした。ビクトリア大学でおこなわれている教員評価は、教育方法の改善を志向したものととらえることが可能である。

また、カナダ2大学の学習教育実践センターでは、教員の個人レベルの対応ではカバーしきれない教育方法の問題を解決するために、各種の活動が展開されている。さらに、メルボルン大学

の言語・学習技能センターでは、学生の学業面での支援を掲げて、学生が効率よく学ぶ環境維持に大きな役割を果たしている。そして、ここで学生から得られた情報は、大学教員にさまざまな形でフィードバックされ、教育方法の改善につながるような組織的な取り組みもなされている。

資料 3.5.1 ビクトリア大学のある学科で使用されていた大学教員教育活動評価票

Teaching

Significantly higher than average peer and student evaluations count towards exceptional performance. The emphasis in the table is on contributions to the Department's teaching goals beyond what happens in individual classrooms.

<i>Level</i>	0: Unsatisfactory	1: Below Expectations	2: Meeting expectations	3: Exceeding expectations	4: Exceptional performance
<i>Senior Instructor</i>	Well below average evals, declining trend, incomplete course delivery	Below average evals, incomplete course delivery	Average-good peer and student evals, evidence of efforts to improve teaching, course development	As at left plus curriculum comm work, scholarship on teaching, leadership in Dept	As at left plus recognition (UVic, outside)
<i>Assistant Prof</i>	As above, no grad or honours student supervision	As above	Average peer and student evals, successful grad or honours student supervision, evidence of efforts to improve teaching	As at left plus course development	As at left plus curriculum comm work, scholarship on teaching, leadership in Dept
<i>Associate Prof</i>	As above	As above plus course development below expectations	As above plus course development	As at left plus curriculum development, scholarship on teaching, leadership in Dept	As at left plus recognition (UVic, outside)
<i>Professor</i>	As above, with emphasis on a continuing negative trend	As above plus departmental contributions below expectations	As above plus Dept curriculum development	As above and at left plus leadership at UVic	As at left plus recognition (UVic, outside)

資料 3.5.2 ビクトリア大学のある学科で使用されていた大学教員研究活動評価票

Scholarly achievements

As is made clear in the Framework Agreement and Faculty of Humanities documentation, it is impossible to list all of the types of scholarly achievements and research contributions that Faculty members make.

<i>Level</i>	0: Unsatisfactory	1: Below Expectations	2: Meeting expectations	3: Exceeding expectations	4: Exceptional performance
<i>Assistant Prof</i>	No evidence of scholarly activity	Less than at right	1-2 quality articles or equivalent in the three-year window plus conference participation, small grant application in three-year window	More than at left in terms of output plus peer recognition (e.g. keynote speaker invitation/s; editorial contributions or refereeing; grant reviewing)	As at left plus academic leadership at UVic and/or national recognition (eg receive SSHRC grant)
<i>Associate Prof</i>	As above	Less than at right in terms of output and other contributions to research	2-4 quality articles or equivalent in three-year window, evidence of a research project, plus other items listed above	As at left plus academic leadership plus peer recognition (see above for examples)	As at left plus scholarly honours at UVic or nationally
<i>Professor</i>	As above, with emphasis on a continuing trend	As above	As above plus academic leadership, national recognition	As above and at left plus evidence of substantial research project (e.g. major grant, book, int'l research collaborations)	As at left plus national or international scholarly honours

資料 3.5.3 ビクトリア大学のある学科で使用されていた大学教員の大学運営貢献に関する評価票

Service and "Other"

The usual case is service to the university. Many other kinds of service also count in the judgment of how people are meeting expectations under this type of work.

Level	0: Below Expectations	1: Meeting expectations	2: Exceeding expectations
Senior Instructor	Less than at right	Service on dept committees, service to wider community	More than at left (e.g. chairs dept, faculty, or university committee, leadership in national professional organization, conference organization, Lansdowne sponsor, recognition of service)
Assistant Prof	Less than at right	Service on dept committees, service to wider community	More than at left (e.g. chairs dept, faculty, or university committee, leadership in national professional organization, conference organization, Lansdowne sponsor, recognition of service)
Associate Prof	Less than at right	Chairs dept committee in three-year window plus serves on faculty or university committee(s); serves in local, national, or int'l professional organization, service to wider community	More than at left (e.g. chairs faculty or university committee in three-year window, leadership in national professional organization, conference organization, Lansdowne sponsor, recognition of service)
Professor	Less than at right	More than above (e.g. chairs faculty or university committee in three-year window, leadership in national professional organization, conference organization, Lansdowne sponsor, exemplary service to wider community)	More than at left

資料 3.5.4 メルボルン大学の言語・学習技能センターで配布されていたチラシとカードの例
学生を対象にレポートの書き方やキャンパス生活での適応など学生支援の情報が掲載されている。



